

式 辞

暖かい春の風に誘われ、狭山池の桜のつぼみも膨らんできました。子どもたちの門出を、たくさんのご来賓とともに祝うことは今年度もかないませんでした。皆様の協力により、第71回卒業証書授与式を挙行できますこと、心よりお礼と感謝申し上げます。ありがとうございます。

223名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが狭山中で行う最後の行事となりました。先ほどの皆さんの様子を見て私は「これで自信を持って次の進路に送り出せるな」と思いました。私は皆さんのこの1年の姿しか知りません。しかし皆さんの素晴らしさ、そして、やさしさを知るには十分な時間でした。

義務教育の締めくりとなる3年間、特に2・3年生の時期は人として大きく成長する時期です。委員会活動や部活動、様々な行事、いずれも学校の中心となって活躍するこの時期、皆さんは多くの制約を受けることになりました。

2年生がスタートしたのは6月、分散登校からでした。マスク着用や消毒、「3密」という言葉が流行語になるほど、感染症対策が続きました。

3年生なれば・・・の思いもむなく、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言。そしてそれに伴う、部活動の中止や修学旅行も延期・日帰りでの実施となりました。皆さんと同じくここにいる大人もやりきれない気持ちでいっぱいになりました。

そんな状況でも皆さんは素晴らしい姿を後輩たちや大人に見せてくれました。

歴史ある狭山中にとって大きな変化となった「校則の見直し」、全校生徒が揃っての練習が、たった1回で当日を迎えた「体育大会」、そして、たとえ、日帰りになっても、みんなで行くことができることを喜びに変え、たくさんの人にほめてもらった

「修学旅行」、どれもがこれからの狭山中に大きな足跡を残すものになりました。

3年間で大きく成長した皆さんに、私から3つのことを話したいと思います。

まず、1つめ、「夢を持ち続ける」ということです。進路に向けた面接練習や自己申告票で皆さんの将来に向けた夢や目標を知りました。警察官やホテリエ、建築関係に言語聴覚士、中にはレスキュー隊員という仕事を挙げている人もいました。他にも「人と関わる仕事」や「誰かの役に立つ仕事」など、具体的な職業ではなく、「こんな人になりたい」という希望を書いている人もいました。

皆さんがこれから出ていく社会は「ソサイエティ 5.0」の社会と言われています。

IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出し、課題や困難を克服していく社会です。

また、人工知能（A I）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットなど、様々な技術で、少子高齢化や地方の過疎化、貧富の格差などの課題を克服していく時代とも言われています。

世代を超えて互いに尊重しあえる社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会に
していくためには、皆さんの力が必要です。

夢に有効期限はありません。なりたい自分や目標に向かってあきらめることなく、チャレンジして欲しいと思います。もちろん、夢や希望が変わることもあるでしょう。でも「目標に向かって努力すること」、そして誰かにではなく、「自分で決めること」が大切です。

そしてもう1つ、「感謝する」ということです。私はこの1週間、自宅で療養していました。その間、私を献身的に支えくれた家族、そして電話やメールでやり取りしながら学校を進めてくれた教職員のありがたさを実感しました。皆さんは、ご家族や地域のかたに見守られて、大きく育ちました。生まれてから今まで、誰の助けもなく、一人で育った人はいないはずですよ。

病気やけがをしたとき、友人関係や進路で悩んだとき、誰かがあなたを支えてきているはずです。時には「うざい」かもしれません。時には「素直になれない」かもしれません。それでも皆さんのそばで支え、見守ってくれている人です。

感謝の気持ちを忘れず、言葉や態度で表現できる人であってください。

最後に、「守ること」です。今日は東日本大震災から11年になる日です。義務教育の9年間、皆さんは防災について学んできました。釜石市のある中学校の防災教育の3つの柱の1つに「助けられる人から助ける人へ」という言葉があります。これまで学んだこと、そして成長した「地域の大人」としてご家族や地域、大切な人を守ってほしいと思います。

保護者の皆さま、お子様のご卒業、おめでとうございます。これまで愛情を注いでこられたお子様の立派に成長された姿をご覧になって、感慨も一入のことと思います。

中学校生活最後のこの1年、お子様の活躍する姿を直接、見ていただく機会を十分に設けることができませんでした。職員一同、特に3年生担当職員は、労を惜しまず、いつも子どもたちに寄り添い、工夫をしながら取り組みを進めてまいりましたが、十分ではなかったこと、お詫び申し上げます。

しかしながら、子どもたちは大いに成長しました。これも皆さまの本校の教育活動に対するご理解とご支援のおかげだと感謝しております。ありがとうございました。

9年間の義務教育が終わろうとしています。4月1日より民法の改正に伴って、「成年年齢」もこれまでの20歳から18歳に引き下げられます。子どもたちは親の同意がなくても部屋を借りることやローン契約ができるなど「大人としての振る舞いが」が求められます。あと3年で成人といっても、親の役割は子どもを社会に送り出すまで続きます。引き続き、子どもたちの自立に向けた「後押し」をお願いします。

終わりにになりましたが、本日はご臨席いただくことは、かないませんでした。日ごろお世話になっている地域の皆さま、大阪狭山市そして大阪狭山市教育委員会の皆さま、改めてお礼申し上げます。皆様方の温かいご支援のおかげで、子どもたちが今日、本校を巣立ってまいります。ありがとうございました。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。狭山中学校で蓄えてきた力があれば、必ず乗り越えていくことができます。皆さんの活躍を教職員一同、心より祈念し、式辞といたします。

令和4年3月11日

大阪狭山市立狭山中学校長 寺下 憲志